

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児指導法演習 II		2年	後期	別途、時間割参照
<b>Method of Teaching Children with Disabilities II</b>				
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
障害児指導法演習 I、障害児保育 I、障害児保育 II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚 登	本館 2階	火・水・木・金曜日の9時～17時		授業中に指示します
授業の概要				
<p>保育園・幼稚園の現場では知的障害を持つ子どもだけではなく、発達障害を持つ子どもも多数存在することが分かっている。そうした子どもたちへの適切な支援にとまどう場面が多くあることが現場では大きな課題として挙げられている。言葉がけの支援だけでは通じない、分かっているはずなのにできない子どもの特性を理解し、子どもが自信を失わないような支援法を、現場で多々生じるであろう場面を想定し、教科書の事例を基に考える。</p>				
授業の目標				
<p>①「困った」行動に対する支援法を教科書に学び、また、教科書に示された以外の支援法も考えることができる。 ②各自の実習時の事例を思い出し、その事例に沿った具体的・包括的な支援を考えることができる。</p>				
授業の方法				
<p>身辺自立では各自が支援法を考え発表する、ソーシャルスキルでは教科書の指定の範囲をまとめ発表する輪読形式の授業形態を考えている。教科書をまとめて発表する、次に実習事例を基に、その事例に応じて教科書の支援法を応用する、別の方法を考えることをで具体的・包括的支援を考え発表する、のいずれかで発表することが求められる。</p>				
学習の成果 (学習成果)				
<p>保育場面での「困った」行動に対し、支援者にとって「困った」行動としてとらえるのではなく、その子どもの成長や集団適応にとって「困った」行動であるとの理解に立ち、 ①その子どもにとって理解し、実行しやすい、具体的な対処法を複数工夫できる。 ②クラスの子どもたちにとって理解し、実行しやすい、具体的な対処法を複数工夫できる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (授業方法、評価の説明、発表分担)、「困った行動」とは			
第2回目	ほめる支援の大切さ			
第3回目	特別に支援を要する子ども (概説、二次障害)			
第4回目	身辺自立1 (靴の左右を混同する子)			
第5回目	身辺自立2 (衣服の前後ろを混同する子)			
第6回目	身辺自立3 (靴下の上下を間違う子)			

第7回目	身辺自立4 (トイレトレーニング)	
第8回目	身辺自立5 (偏食が強い子)	
第9回目	ソーシャルスキル1 (勝手に外へ行く子・行事参加を嫌がる子・耳ふさぎをする子)	
第10回目	ソーシャルスキル2 (かんしゃくを起こす子・興奮しやすい子)	
第11回目	ソーシャルスキル3 (ほかの子と遊べない子)	
第12回目	ソーシャルスキル4 (遊びのルールが守れない子)	
第13回目	ソーシャルスキル5 (勝ちにこだわる子)	
第14回目	ソーシャルスキル6 (お絵かきや制作をしない子)	
第15回目	ソーシャルスキル7 (切り上げられない子)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)	10%	教科書をまとめるか、実習事例をまとめるか、いずれかで全員が発表します。パワーポイントで発表です。
その他	90%	毎時間ワークシートを用意するので、事例に対し支援法をまとめることが課題です。6点×15回=90点
教科書と参考図書		
こんなときどうする? 発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園 ミネルヴァ書房		
履修上の留意点・ルール		
発表はパワーポイントで行ってください。		